

開催案内

人生を豊かに生きるための セミナー 2026



人生を元気に
生きるためのヒント

特別講演

笠井 信輔氏

10月11日(日)

START 13:00 ~ 15:30

トキのむら元気館

講師：笠井信輔氏のご紹介

フジテレビアナウンサーとして33年間活躍。

2019年フリー転身直後に悪性リンパ腫と診断され、
4カ月半の闘病を経て寛解。

病とどう向き合うか、人に支えられて生きる
ということ、逆境でも前向きに生きる知恵を、
自身の体験をもとにお話いただきます。

お申し込みは
こちらの
QRコードから

定員200名

入場料：無料（要予約）



1部：「歩行ガイドによる

Well-being（しあわせ）づくり」

医療法人 恒仁会

新潟南病院 統括顧問

和泉 徹氏

2部：特別講演

「人生を元気に

生きるためのヒント」

笠井 信輔氏

参加をご希望の方は、下記までお電話または
QRコードからお申し込み下さい。

主催：新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部

一般社団法人

佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会

お申込み・お問い合わせ 0259-63-6376

月～金 09:00~17:00

一般社団法人

佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会

しまみらい通信

みんなが笑顔で
すこやかにすごせる
地域をつくる

Spot Light

この島で働く道を選んだ
ベトナムからの看護師

Special

「佐渡で暮らす未来を創るために
今を知る、これからを考える」

JA新潟厚生連佐渡総合病院 病院長 佐藤 賢治氏

Feature

「誰にでも、起こりうる」に安心を

相談支援センターそらうみ

相談支援専門員・社会福祉士

本間 奈美氏

Topics

「しまみらい」アクションレポート

Event Info

「人生を豊かに生きるためのセミナー 2026」開催のご案内

一般社団法人 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会（しまみらい） R8年9月1日 発行 0259-63-6376 / 佐渡市 社会福祉部 社会福祉課 0259-63-5113
一般社団法人 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会（しまみらい） R8年9月1日 発行 0259-63-6376 / 佐渡市 社会福祉部 社会福祉課 0259-63-5113

「佐渡で暮らす未来を創るために 今を知る、これからを考える」

JA新潟厚生連佐渡総合病院
病院長 佐藤 賢治氏



『佐渡の医療は、この先どうなるのか』を誰よりも早くこの問いと向き合ってきたのが、佐渡総合病院の佐藤賢治氏です。10年以上前から島の医療提供体制に警鐘を鳴らし、体制づくりの先頭に立ってきた氏に、いま市民のみなさんへ伝えたいことを寄稿いただきました。

未来はここから始まります。

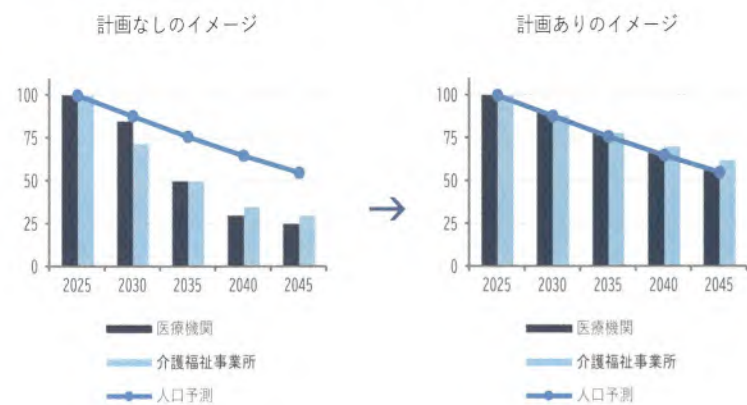
されました。わずか3年であつて六つあつた病院が二つに減っています。まさに激減です。残された両津病院と佐渡総合病院も需要と働き手の減少から入院病床を減らしています。同様のことが介護事業所にも起こりつつあり、診療所・歯科診療所も徐々に減っていきます。

◇これまでの取り組み

現在の佐渡の姿は10年前から予測されており、種々の対策が講じられてきました。行政や医療福祉の目的は地域住民の生活にあります。生活には、元気な日常生活、障がいや後遺症を持ちながらの生活、死期が近い状態での生活など様々あります。住民個々の状況に応じて行政・医療・介護・福祉が関わっています。働き手と医療福祉施設が減っていく中では、関わる者が各々でできることを効率的につなげていかなければなりません。佐渡では関係者が集まって佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会「しまみらい」を設立、連携の強化を進めています。

連携は住民の情報を共有し、伝えていくことが基本です。「しまみらい」は「さどひまわりネット」や「さどヘルスケアナビ」など革新的な仕組みを構築、

図1 提供体制と人口の推移（2025年=100・イメージ）



医療福祉従事者が職種や組織を越えて集まり、協議を重ねて必要な対策を実践しています。連携は医療福祉施設間にも当てはまります。それぞれが持つ機能を最大限に活用すべく、住民の状態に合わせて適切な施設を選定できる取り組みも進めています。これは各施設の安定的運営にも寄与します。以上は他に例を見ない先進的な取り組みであり、今後の日本に必要なモデルです。佐渡は医療福祉従事者がこれからの社会に必要な資質を学べる場所であり、ここに佐渡の価値があります。

◇直面している医療福祉の危機

佐渡の医療・介護・福祉（以下、医療福祉とします）は社会に必要な機能として存続できるか？の分岐点にいます。もはや医療福祉はあたりまえではありません。住民を含む地域全体で今起こっていることを知り、積極的な対策を講じなければ、5～10年で必要な機能は失われます。

◇何が起きているのか？

危機をもたらす要因は、人口減少、少子高齢化、医療の進歩、安全管理への高い要求、コストの上昇です。人口減少は医療福祉の需要を減らし、急速な少子化は将来に渡る人手不足を約束します（表1）。

表1 年齢階層別人口比較

	2015年	2025年	増減
0～14歳	5,986人 (10.5%)	4,273人 (8.9%)	▲1,713人 28.6%減
15～64歳	28,126人 (49.1%)	23,192人 (48.2%)	▲4,934人 17.5%減
65～74歳	9,331人 (16.3%)	8,169人 (17.0%)	▲1,162人 12.5%減
75歳以上	13,729人 (24.0%)	12,469人 (25.9%)	▲1,260人 9.2%減
総人口	57,255人	48,103人	▲9,152人 16.0%減

参考：国勢調査、社人研 将来推計人口

◇佐渡で暮らす未来を創ろう

懸命な努力にも関わらず、働き手の減少は今後も進み、医療福祉提供体制の縮小は避けられません。「しまみらい」は今後の佐渡の姿を冷静に見つめ、妥協できる縮小を計画的に進める努力を連携とともに進めます（図1）。これは住民に生活していく力をでさるだけ保つ行動を求めることでもあります。住民の生活は住民自身のものです。私たちも地域の一人であり、佐渡で暮らす未来をみなさまと一緒に創っていききたい。医療福祉の縮小をただ待つのではなく、みなさま自身のこれまでの「生きざま」と、これからどう生きていくのかを私たちに教えて下さい。未来はここから始まります。

高齢化は医療福祉従事者の業務を増やし、高齢者のみ世帯が増えて生活支援の必要性を高めます（表2）。

表2 高齢者のみ世帯の比較：2015と2020

	2015年	2020年	増減
高齢夫婦のみ世帯	3,664世帯 (16.4%)	3,366世帯 (15.9%)	▲298世帯
高齢単身世帯	3,848世帯 (17.2%)	4,036世帯 (19.0%)	+188世帯
総世帯数	22,352世帯	21,197世帯	▲1,155世帯

※参考：厚生労働省 国勢調査

医療や安全管理の進歩は寿命を大きく延ばし、世界一安全な医療を実現した一方、高額な医療機器と多くの専門職が必要になり、皮肉にも超高齢社会を招きました。

医療福祉に求められるヒトとカネは増加の一途なのに、働き手はどんどん減り、財政や保険制度は必要な費用を賄えていません。国も自治体も状況を十分把握しており、かなり積極的に広報しています。しかし、国民は不都合な真実を受け入れられず、選挙では正面から語られることはありません。

二〇二〇年以降、羽茂病院と相川病院が診療所に変わり、佐和田病院は閉院、真野みずほ病院も佐渡総合病院に統合

行政・医療福祉関係者と住民が「知るべきこと・できること」

まず、知る

- ✓ 行政・医療福祉の目的は地域住民の生活にある
- ✓ 佐渡、日本で起きていること・起こること
- ✓ 佐渡の行政・医療福祉ができること・できないこと
- ✓ 医療福祉はできることをつないで実現される

そして、創る

1. 住民はこれまでの人生を、医療福祉はこれまでの歴史を振り返る
2. 住民はこれからの生き方を、医療福祉はこれからの姿を考える
3. 振り返ったこと、考えたことを持ち寄って未来を創る

「誰にでも、起こりうる」に安心を

お結び島サポートプロジェクト座長
相談支援センターそらうみ
相談支援専門員・社会福祉士

本間 奈美氏

「身寄りがなくても」安心して暮らし続けられる島にーお結び島サポートプロジェクト

人口減少・超少子超高齢化が進み、若年層の流出が大きな課題になっている佐渡。医療・福祉・行政などが集まり、人と人、人と制度を「結んで」支える島共通の仕組みづくりが始まりました。「お結び島サポートプロジェクト」と名付けました。プロジェクトリーダーを務める本間奈美氏に聞きました。

Feature



ワーキンググループで議論する本間座長



第1回4月 | 定義と理念について

◇今、佐渡で何が起きていますか。

「佐渡では、65歳以上だけで暮らす世帯のうち、半分以上がひとり暮らしです。『いざ』というとき、頼れる人が島内にいない』という方は年々増えています。もう特別な誰かの話ではなく、誰にでも起こりうることなのです。」

◇具体的には、どんな場面で困るのでしょうか。

「大きく三つあります。一つ目は、入院や入所するとき。保証人や緊急連絡先を求められ、いない場合に受け入れが滞ることがあります。二つ目は、医療の判断。意識がないとき、治療方針や延命措置、判断能力が低下したりした場合等について、誰が本人の意思を伝えるのか。三つ目は、亡くなった後。葬

儀、家の片付け、支払い『死後事務』と呼ばれる手続きの担い手がいなことです。」

◇プロジェクトでは、島の実情を調べたそうですね。

「島内49の病院・施設・事業所からアンケートに回答をいただきました。身寄りのない方への対応は、多くの職場で業務の1割にも満たない。それなのに、八割の人が『対応で困った経験がある』と答えています。頻繁に起こることではないのに、ひとたび直面すると、ほとんどの人が難しい場面に直面する。交通手段を船に頼る島で、民間の保証会社もほとんどなく夜間や緊急時に親族の支援を受けることは困難。その隙間を、現場の善意とも言える『見えない仕事』が埋めてきたのです。善意頼みの仕組みは、担い手が減れば立ち行かなくなります。」

◇ガイドラインができると、何が変わりますか。

「めざしているのは『守り』と『連携』です。守りとは、現場の支援者が安心して『ここはできない』と言えるルール。保証人としてのサインや医療同意など、支援者などの個人が背負ってはいけない一線を



第3回6月 | 医療・救急時の対応

はつきりさせ、働く人を守ります。連携とは、できない部分を地域全体でカバーし合う設計図。その結果、住民のみなさんは、どの窓口からでも滞りなく支援につながれるようになります。アンケートでは、回答した全事業所が『公的な支えが必要』と答えました。

◇住民が、元気なうちにできる備えはありますか。

「三つ、お願いしたいことがあります。一つ、緊急連絡先や、かかりつけ医・飲んでる薬の情報を整理して、目につく場所に置いておく。二つ、『どこで、どう過ごしたいか』を、身近な人や関わりのある親族や知人、専門職に話しておく。三つ、困ったら我慢せずぐに相談する。」

『窓口は、いつも開かれています』。備えは、あなた自身のためだけではありません。いつか、あなたを支えることになる誰かへ思いをつなぐことでもあります。

◇最後に、住民のみなさんへ。

「病院、地域のケアマネジャーや相談員、介護施設、地域包括支援センター、社会福祉協議会、法律家当事者団体など、立場の違う20名を超えるメンバーで議論を重ね、今年度、中間の取りまとめを行います。さらに島内の関係機関から広く意見をいただき、磨いていきます。」

『身寄りがいない』は、珍しいことではありません。家族が近くになくても、安心して年を重ねられる島へ。どうかひとりで抱え込まず、まずは相談してください。」



第2回5月 | 支援の境界線

01

始動

お結び島サポートプロジェクト



高齢化が進む島で増える「身寄りのない方」を、島ぐるみで支えるために。医療・介護・福祉・行政、そして弁護士まで、20名を超える専門職が集まり、島共通のルール「身寄りなしガイドライン」づくりが始動しました。

▶詳しくは特集(P.4-5)へ

02

佐渡総合病院 ×

島内ケアマネジャー

より良い連携に向けた懇談会

を実施しました！



参加者が日頃抱えている疑問や本音を出し合い、現場のリアルな課題に、病院から出席したみなさんが率直で丁寧な回答を寄せてくださいました。スムーズな連携の第一歩は「顔の見える関係づくり」から——参加者の実感がぐっと深まった、有意義な懇談会となりました。

03

ケアマネジャー ×

薬剤師 情報交換会を開催しました



会場は相川の「よう喜多屋」さん。島内のケアマネジャーと薬剤師 21 名が集まり、服薬ロボットの紹介や、車座での本音トークで互いの仕事への理解を深め、在宅ケアを支える「一つのチーム」であることを確かめ合いました。

04

「食べる」喜びを守る！

栄養士向け『食事場面での誤嚥予防研修会』を開催しました



講師は、嚥下のスペシャリストである言語聴覚士・山下峰生さん(株式会社クローバー佐渡 代表取締役)。食事は単なる「生命維持」ではなく、精神的・社会的な意義を持つ大切なもの——座学で誤嚥のリスクを学んだあとは、実践演習へ。「万が一窒息が起きたら？」「どこを観察すればいい？」と、現場に直結する質問が次々と挙がりました。

05

栄養士人事交流研修会を開催しました



島内の栄養士 17 名が集まり、新しくなった両津病院の厨房を見学しました。用途ごとに区切られた作業室、適温で届ける温冷配膳車——「衛生管理の動線がわかりやすい!」「新しい厨房がうらやましい!」と、率直な声が飛び交います。後半の主役は、施設ごとに異なる「きざみ食」の大きさ比べ。実物のご飯やおかずを見比べながら「うちはこのくらい」「そちらは細かいんですね!」と会話が弾み、自分の施設の食事形態を見直すきっかけになったという声も。アンケートでは、参加者全員が「参考になった」と回答しました。食を支える専門職の輪が、また一つ広がっています。



06

南佐渡「在宅ケア」懇談会を開催しました



住み慣れた家で安心して暮らし続けるために——南佐渡地域の訪問看護、24 時間対応の定期巡回サービス、ケアマネジャーら 12 名が集まり、チームケアのあり方を語り合いました。夜間も駆けつけられる体制は、ひとり暮らしの方や看取り期のご家族の大きな支えに。役割を分担し、一つのチームとして地域を支えることを確認し合いました。

07

歯科衛生士 × 薬剤師

「ゆるっとミーティング」を開催しました

飲んでいる薬は、歯ぐきの腫れや口の乾き、抜歯の可否にも関わります。患者さんを挟んで隣り合う歯科と薬局——しかし、これまで顔を合わせる機会はほとんどありませんでした。この日はカフェに集まり、「薬のこと、どこまで聞いていいか迷う」「気軽に相談してほしい」と本音を交換。お薬手帳の活かし方など、連携の種が次々と生まれました。みなさまの身近な医療は、こうした横のつながりに支えられています。



08

「人生を豊かに生きる」セミナーを開催しました



「モノが減ると、心が潤う」——断捨離® 提唱者・やましたひでこさんと、小田隆晴先生を講師に迎えた住民向けセミナー。会場のあいぼーと佐渡には多くのみなさまにお越しいただき、日々をごきげんに生きる知恵に、うなずきと笑いが絶えないひとときとなりました。

▶今年のセミナーは 10 月 11 日(日)開催! 詳しくは裏表紙へ

09

「透析だから」と、あきらめないために



透析患者さんの受け入れは難しい——そう考えられてきた介護の現場に向けた、島では初めての研修です。ケアマネジャーら 44 名が、実機に触れて学んだのは「腹膜透析(PD)」。機械が音声で案内してくれる操作に「これなら施設でもできそう」の声が上がりました。透析の方の居場所が、島に広がり始めています。



Spot Light

この島で働く道を選んだ — ベトナムからの看護師



表紙を飾ってくれたのは、レー・ティ・ホンさん(36)。ベトナム出身、今年4月から南佐渡で働く看護師です。

日本に来て3年。猛勉強の末に日本の看護師国家試験に合格し、福島の病院を経て、この春、海を越え

て佐渡へ。来日のきっかけは「富士山に登りたかったから」。ただし、まだ近くで見ただけだそうです(笑)。

「佐渡の人は本当に親切です。バスを間違えたときに助けてくれたり、近所の方がナスやキュウリをくださったり。透き通った青い海も、カニもお寿司も、大好きになりました」

仕事で大切にしているのは、利用者さんの笑顔。こたつで寝てばかりで表情のなかったおばあちゃんの髪を毎日きれいにとかし、テーブルに鏡を置いてみました。すると、自分の顔を見て

「ニコッ」。「1 か月ぶりに会いに来た娘さんが『お母さんが笑ってる!』と驚いて、喜んでくださって。私も本当にうれしかったです」

方言はまだ勉強中。車では日本語のCDを聞き、AIも使いながら、伝える努力を続けています。これからの夢は、訪問看護の技術を学び、ずっと日本で暮らすこと。「おじいちゃん、おばあちゃんが自分らしく笑って過ごせるように、心に寄り添える人になりたいです」見かけたら、ぜひ声をかけてくださいね。

【取材協力】

株式会社 SPIN スピンケア 24 つむぎ佐渡 看護師 レー・ティ・ホンさん